

【原文】

大慈孝順閭第一。慈孝者、思從内出、思以蔵發、不學能得之、自然之術。行與天心同、意與地合。上有益帝王、下為民間昌率、能致和氣、為人為先法。其行如丹青、故使第一。明道德大柔閭第二。明經道德、為百姓先學、好道善聚德、不致盜賊。上有益帝王、化之最真吉矣。孝悌始學化善閭第三。始學欲為善、心中有庶幾、去邪就正、且成仁行未化也。佻家子謹閭第四。佻家謹力子、平旦日作、日入而息、不避勞苦、日有積聚、家中雍雍、以養父母、得土之利、順天之道、不敢為非、有益縣官。大不仁之子、無義少年好兵聚姦閭第五。無義之人、不仁之子、不用道理、罵天擊地、不養父母、行必持兵、恐畏鄉里。輕薄年少、無益天地之化、反為大害、并力計捕、捐棄溝瀆、不得蔵埋。

【書き下し】

大慈孝順閭第一。慈孝は、思は内従り出で、思は蔵を以て發し、學ばずして能く之を得る、自然の術なり。行いは天と心を同じくし、意を地と合す。上は帝王に益有り、下は民間の昌率と為り、能く和氣を致し、人と為り先法と為り。其の行は丹青の如く、故に第一たらしむ。

明道德大柔閭第二。明經・道德、百姓の先學と為り、道を好み善く徳を聚め、盜賊は致さず。上は帝王に益あり、化の最も真吉なるものなり。

孝悌始學化善閭第三。始學は善を為さんと欲し、心中に庶幾有り、邪を去り正に就き、且つ仁を成さんとするも行い未だ化せざるなり。

佻家子謹閭第四。佻家の謹力たる子、平旦に日作し、日入りて息み、勞苦を避けず、日び積聚有り、家中は雍雍として、以て父母を養い、土の利を得、天の道に順ひ、敢へて非を為さず、益は縣官に有り。

大不仁之子・無義少年好兵聚姦閭第五。無義の人、不仁の子、道理を用いず、天を罵り地を撃ち、父母を養わず、行くに必ず兵を持ち、郷里を恐畏せしむ。輕薄の年少、天地の化に益無く、反つて大害を為し、并せて計捕に力め、溝瀆に捐棄せられ、蔵埋するを得ず。

【日本語訳】

大慈・孝順の閭第一。慈孝は、(慈愛と孝順についての)思は人の内心から出てくるし、その思は人が内藏していることから発するもので、學びによって習得することはできない、自然のものである。行いは天の心と同じになることであり、考えを地と合せることである。上は帝王(の治世)に益があり、下は民間を盛んに率いるものとなり、よく和の氣を生

じ、人となり先法となる。其の行いは丹青のようである。故にこの条が第一なのである。道徳大柔を明らかにする閻第二。明經と道徳に通じ、百姓の先学となり、道を好み善く徳を聚め、盜賊はやってこない。上は帝王（の治世）に有益な、教化の最もすばらしいものである。

孝悌・始學善化するの閻第三。學び始め、善行をおこなおうとすれば、心中に目標ができ、邪は取り除かれ正となる。しかし、仁を成そうとして、行いに未だ善化されていないところがある（段階である）。

佃家子謹の閻第四。農家の慎み深く仕事に務める子弟は、朝から働き、日が沈むと休み、勞苦を避けず、一日また一日と財産を貯め、家族は睦まじくなり、ゆえに父母を養う。大地の恵みを受け、天の道にしたがい、敢えて道に背くことはしないため、縣官（地方官）にも有益なのである。

大いに不仁の子、無義の少年は兵（武器）を好み奸佞を聚めるの閻第五。道義のない者、不仁の子は、道理に基づき行動しないため、天を罵り地を撃ち、父母を養わない。行動する際は必ず武器を持ち、郷里の人々を恐れさせる。輕薄な若者は、天地が万物を育てることに益が無く、大きな害をもたらす。そして捕らえられて、道ばたの溝に遺棄され、埋葬されることはない。

【注】

閻 『禮記』「曲禮上」

夫為人子者、三賜不及車馬。故州閻鄉黨稱其孝也、兄弟親戚稱其慈也、僚友稱其弟也、執友稱其仁也、交游稱其信也。見父之執、不謂之進不敢進、不謂之退不敢退、不問不敢對。此孝子之行也。

明經

太平經 35 興善止惡法第四十三

故大臣故吏使其東向坐、明經及道徳人使北向坐。

始學

和氣 『禮器』「祭義」

孝子之有深愛者、必有和氣。有和氣者、必有愉色。有愉色者、必有婉容。孝子如執玉、如奉盈、洞洞屬屬然、如弗勝、如將失之。嚴威儼恪、非所以事親也、成人之道也。

謹力 『史記』卷一百三「萬石張叔列傳」

建陵侯衛綰者、代大陵人也。綰以戲車為郎、事文帝、功次遷為中郎將、醇謹無他。孝景

為太子時、召上左右飲、而縮稱病不行。文帝且崩時、屬孝景曰「縮長者、善遇之。」及文帝崩、景帝立、歲餘不嚙呵縮、縮日以謹力。

日作 『鹽鐵論』卷六「水旱」

大夫曰「卒徒工匠、以縣官日作公事、財用饒、器用備。家人合會、編於日而勤於用、鐵力不銷鍊、堅柔不和。故有司請總鹽、鐵、一其用、平其賈、以便百姓公私。雖虞、夏之為治、不易於此。吏明其教、工致其事、則剛柔和、器用便。此則百姓何苦？而農夫何疾？」

計捕 『明史』卷一百八十五 列傳第七十三「黃紱」

二十二年擢右副都御史、巡撫延綏。劾參將郭鏞、都指揮鄭印、李鐸、王琮等抵罪、計捕奸豪張綱。

【原文】

不和家中、欺老愛少、共食異財閭第六。家將必敗、骨肉不和、不能相教、妄傳往來、更相逃避、背本向末、其禍不救矣。

悔過棄兵閭第七。生於窮里、希有聞觀、不知善惡、有過天下、行不合天。賴有明君、使我就善。少不知學、長乃悔之、使善人賢士、以五尺柱高、卒有去閭。學者當考問之、一旦民皆為善矣。

悔過更合善閭第八。室學不成、禍亂悉生。賴有明君、知我情由、令我悔過、反致為人師矣。大惡人邪貪敗化閭第九。尸祿・邪惡・貪賊、欺上害下大佞、名為官賊、似人之形、貪獸之情、無益天地陰陽、災深當誅亡。

除過復正悔事閭第十。悔過改行易心、少無善情、災害數生。朝過暮改、名為善人。此十閭、古賢聖人之法、樂人為善、使不相賊傷、欲令各終天年、還反其道、防絕其本、得觀太平之氣也。

【書き下し】

不和家中、欺老愛少、共食異財閭第六。家將に必ず敗れんとするも、骨肉は和せず、相ひ教ふる能わず、妄傳は往來し、更ごも相ひ逃避し、本に背き末に向ひ、其の禍救わず。悔過棄兵閭第七。窮里に生れ、希に聞觀有るも、善惡を知らず、過ち天下に有り、行は天に合せず。賴いに明君有り、我をして善に就かしむ。少くして學を知らず、長じて乃ち之れを悔い、善人賢士は五尺の柱を以て高しとし、卒に閭を去らしむ有り、學ぶ者當に之れを考問すべし。一旦に民は皆な善と為るなり。

悔過更合善閻第八。室學成らず、禍亂悉く生ず。頼（さいわい）に明君有り、我が情由を知り、我をして過を悔いせしめ、反って人師と為るを致す。

大悪人邪貪敗化閻第九。尸祿、邪惡、貪賊、上を欺き下を害し大いに佞り、名を官賊と為す。人の形に似るも、貪獸の情、天地陰陽に益無く、災い深く當に誅亡すべし。

除過復正悔事閻第十。過を悔やみ行を改め心を易え、少くして善情無く、災害數しば生ずるも、朝の過を暮に改めるを、名づけて善人と為す。此の十閻、古賢聖人の法、此十閻、古賢聖人の法たり、人の善を爲すを樂い（樂しみ）、相い賊傷せざらしめ、各々天年を終え、其の道に還り反り、其の禍の本を防ぎ絶え、太平の氣を觀るを得しめんと欲すればなり。

【日本語訳】

家族は睦まじくなく、老人を欺き若者を愛し共に食事をするも財産を異にする閻第六。家が今にも衰えようとしていても、肉親は不仲で、互いに教化することはなく、嘘の言葉が交わされ、互いに責任から逃れ、（道の）根本から離れ些末な事に向かうので、其の禍から救われない。

過を悔い兵を棄てるの閻第七。窮里に生れ、希に見聞することがあるが、善惡を知らず、世の人々に罪を犯し、行いは天の心と合致することはない。幸いにも賢明な君主がおり、私を善に導いてくれた。若い時は道を學ぶことを知らず、成長した後、これを悔やむようにさせる。善人賢士ならば五尺の背丈の（若い）内に、閻から旅立たせる。學ぶものなら、これについて尋ね問うべきである。そうすると、ある朝に人々は善となるであろう。

過ちを悔い更に善と合すの閻第八。家庭教育がよくなく、禍亂ばかり起こす（人がいる）。幸いに賢明な君主がいて、私の事情を知り、私に過去の過ちを悔い改めさせる。すると反って人の師となるにまで至った。

大なる悪人、奸邪・貪欲、化を敗るの閻第九。尸祿（俸給をもらうも仕事はしない）・邪惡・貪賊どもは、上を欺き下を害し大いにへつらい、官吏の中の賊と呼ばれる。姿は人のようであるが、貪欲な獸の性情であり、天地陰陽に益は無く、甚大な禍をもたらすので誅殺すべきである。

過ちを除き正に復し事を悔むの閻第十。過ちを悔やみ行いを改め心を入れ替えるが、若いときから善の性情がないため、災害がしばしば自身に降りかかる。（しかし）朝の過ちを夕に改める人なら、善人と称する。

以上の十閻は、古の賢人聖人の教化の法であり、人が善を行うことを願ひ、互いに傷つけあわせず、それぞれ寿命を全うし、真の道に立ち返り、根本を絶えてしまうことを防ぎ、太平の氣を目睹させようとしたものである。

【注】

窮里 『漢書』卷七十六「趙尹韓張兩王傳」

郡中盜賊、閭里輕俠、其根株窟穴所在、及吏受取請求銖兩之姦、皆知之。長安少年數人會窮里、空舍謀共劫人、坐語未訖、廣漢使吏捕治具服。

聞觀 『晉書』卷八十二 列傳第五十二「干寶」

寶既博採異同、遂混虛實、因作序以陳其志曰「雖考先志於載籍、收遺逸於當時、蓋非一耳一目之所親聞觀也、亦安敢謂無失實者哉……」

考問 『史記』卷六十六「伍子胥列傳」

自太子居城父、將兵、外交諸侯、且欲入為亂矣。平王乃召其太傅伍奢考問之。伍奢知無忌讒太子於平王、因曰、「王獨柰何以讒賊小臣疏骨肉之親乎？」無忌曰、「王今不制、其事成矣。王且見禽。」於是平王怒、囚伍奢、而使城父司馬奮揚往殺太子。

室學 『論衡』「實知」

人才早成、亦有晚就。雖未就師、家問室學。人見其幼成早就、稱之過度。云項託七歲、是必十歲。云教孔子、是必孔子問之。云黃帝、帝學生而能言、是亦數月。云尹方年二十一、是亦且三十。云無所師友、有不學書、是亦遊學家習。世俗褒稱過實、毀敗踰惡。

賊傷 『墨子』卷十五「號令」

吏卒民死者、輒召其人、與次司空葬之、勿令得坐泣。傷甚者令歸治病家善養、予醫給藥、賜酒日二升、肉二斤、令吏數行閭、視病有瘳、輒造事上。詐為自賊傷以辟事者、族之。

○背本向末

老子『老子』第52章

天下有始、以為天下母。既得其母、以知其子。（王弼注、母、本也、子、末也。得本以知末、不舍本以逐末也。）

還反 『淮南子』「道應訓」

荊有飲非、得寶劍於幹隊、還反度江、至於中流、陽侯之波、兩蛟挾繞其船、飲非謂柅船者曰「嘗有如此而得活者乎？」

○還反其道

『老子』第30章「以道佐人主者、不以兵強天下。其事好還。」

（王弼注、為始者務欲立功生事、而有道者務欲還反無為、故云、其事好還也。）

防絕 『漢書』卷六十八「霍光金日磾傳第三十八」

今茂陵徐福數上書言霍氏且有變、宜防絕之。鄉使福說得行、則國亡裂土出爵之費、臣亡逆亂誅滅之敗。往事既已、而福獨不蒙其功、唯陛下察之、貴徙薪曲突之策、使居焦髮灼爛之右。